

設立 平成24年 5月15日  
開塾 平成24年 9月 8日  
発行 令和 6年12月21日  
(139号)

# 中之島ニユース

[事務局] 〒567-0861  
茨木市東奈良2-7-10  
人間学塾・中之島  
事務局 古田修平  
編集長 西村俊幸

若い頃、大きな体験がありました。それは蓄膿症の手術のこと。手術中に緊急事態に陥り慌てたお医者さんが麻酔無しで切開をしたのです。大量の出血に付き添っていた母はその場で倒れました。私はそのとき初めて、自分の身に起ることは、すべて避けられないことだと悟りました。この痛みから逃れられないのなら、どうしたらしいのか。静かに痛みの中に入つていく、という体験をするのです。「受けたもう」と、すべて受け入れる。痛みの中に入つた最初の体験のあと、無事に生かしてもらつたとき、人のためになることをし、人に喜ばれてお返しがしたい、と思いました。その後も三度の癌、脳梗塞、高い場所から落ちるなど死ぬ直前を体験したりもしましたが、そのたびに「受けたもう」の体験となりました。

私は幼いときから体も弱く、ずっと「自分はどうして生まれどうやつて死ぬんだろう」と考えていました。学校ではそんなことは教えてくれません。多くの本を読むうちに、自分の知りたいのは、心や魂のことだと解つきました。日本人が持つてゐる大和魂とは、日（靈）に基づく生き方であり、大きく和して生きること。日本の神々は人百万の神で、それぞれに役割があり、しかも互いにリスペクトし合つてゐること。そのそれぞれがあるが今まであることを一番貴いとし、調和していること。十か十一歳のときにそれらのことを子どもなりにノートに記しています。やがてそれは、ずっとのちに古事記との出会いに結びついて、きります。



## ■痛みの中に入る

愛され故され信じられて  
なり愛を実践して生きていく  
今野 華都子先生  
(十一月度特別講義)

## ■従業員に育てられ

私は酪農家のもとに嫁ぎ、四六歳までは毎牛の乳しぼりをしていましたが、勤め人だつた夫がリストラされ、急きよ子どもたちの学費を工面しなければならなくなりました。そうしてまつ毛パークから始め、美容の世界に入りました。お客様と接する中で、良くなる人となかなか変わらない人がいる。考え方や生活の癖が顔に出ていて、それを解消しないちはすっかりは良くならないと気づきました。これは技術の問題ではなく、心がどこをみているか?が重要だと気づきました。そんな中、技術のコンテストがあり日本一に、そしてまた二〇〇五年のコンテストでは世界一になります。

従業員のA子は常に憮然とした態度でいつも私をいらだたせます。それでもこの子を育てようと思いました。実は育てられたのは私の方でした。私は挨拶やお茶の淹れ方を毎日自分がやつて伝えました。そのうち少しづつA子は自分の話をしてくれるようになりました。彼女は母親を病氣で亡くして傷ついていました。やがて彼女のお茶はだんだん美味しくなってきました。A子が来て三ヶ月後、新しい子が入ってきました。このB子は不器用この上ない子でした。A子は「あいつは役に立たないからやめさせましょ」と言つっていました。しばらくすると辞めると言つて、B子に伝えました。「待つてるから。あなたのできるやり方を考えなさい」。社会で居場所がないと感じている人の居場所を誰が作るのでしよう。

その後に入ってきたC子もお客様に怒鳴られたりました。そこが三八億円の負債をかかえていることは後で聞かれます。これまででも錆々たるホテルマンが社長として就任し、数字が出

か変わらない人がいる。考え方や生活の癖が顔に出でていて、それを解消しないいうちはすつかりは良くなないと気づきました。これは技術の問題ではなく、心がどこをみていくか?が重要だと気づきました。そんな中、技術のコンテストがあり日本一に、そしてまた二〇〇五年のコンテストでは世界一になります。

従業員のA子は常に慄然とした態度でいつも私をいらだたせます。それでもこの子を育てようと思いました。実は育てられたのは私の方でした。私は挨拶やお茶の淹れ方を毎日自分がやつて伝えました。そのうち少しづつA子は自分の話をしてくれるようになりました。彼女は母親を病気で亡くして傷ついていました。やがて彼女のお茶はだんだん美味しくなってきました。A子が来て三ヶ月後、新しい子が入ってきました。

でいを ここままで出でまし

せずに次々に代わつていったというその場所に、全く何も知らない私が社長に就任したのです。当時社員は誰も自分の仕事以外のことはする気もなく、どうせ新しい社長もすぐに辞めるだろうと誰も私と関わろうとしませんでした。私は就任後全員と面談をし「このホテルがなぜ悪くなつたか教えてほしい」と聞きました。「ところでそれを誰が解決するのですか？現場を受け持つのは皆さんがです。あなたはあなたの人生をここで生きる、と決めたからここにいる。それならばどうなりたい？あなたの働きで幸せになる人がきっとたくさんいる、それを形にしたらどんなことがで起きる？自分の人生がここにあるのなら、あなたの人生をここで私と一緒に良くしてみないか？」私はそれがやりたい」と伝えました。

かつて“あおさパン”を焼いてコンクールで賞をとった社員がいました。私は彼に、誰もが自慢したくなるような美味しいパンを一緒に作ろう、と提案しました。彼は何度も何度も作り直し、いつも社長室の机には焼きたてのパンがありました。私は素人ですが、それを食してまた希望を伝えるのです。それを繰り返すうち、ついに「これだ！」というパンが出来上がりま

その後に入ってきたC子もお客様に怒鳴られ  
辞表を持ってきましたが、今も全員が協力し合  
い仕事を続けています。

そのときに先に生まれ  
場所を作り、そして思  
れこそがこの国が持つ  
(抄録 中川千都子)

《グループ討議》 今野 華都子 先生

◆Aグループ

個性を活かして調和する。「和える」  
裏に道あり花の山

自分育ては 人から育ててもらっている  
相手の点数=自分の点数

◆Bグループ

「登賀米受」とがめず  
問題と思うことが問題

◆Cグループ

「登賀米受」とがめず  
ゆるす

◆Dグループ

他人を受け入れ、良い所を見つけて、育てる  
裏に道あり花の山

◆Eグループ

相手の評価は自分の評価  
とがめることなく受け入れる

◆Fグループ

相手の点数が自分の点数  
「思いやり」ではなく「思い合う」

◆Gグループ

「登賀米受」とがめず  
先に生まれたものが場を作る、手を差しのべる

従業員が一人も辞めない  
こころの持ち方  
「思いやり」ではなく「思い合う」  
従業員への態度（相手をゆるす、育ててもらう）



## 第13期 読書会開催



**Aグループ  
テキスト  
「ありがとうございます」  
指導 中川 千都子 代表  
進行 石黒 尚 塾生**

内容 (四)無限の無限の安らぎが一杯  
151~181

151

人生の真の目的は、本心開発（真実の悟り）です。何事をしていても、本心開発に繋がらないものは、間違った道に迷い込んで、時間の無駄遣いをしているのです。一刻も早くそのことに気付かなければならぬのです。

155

「ありがとうございます」という祈りの言葉の上には、一切の救済の神々の大光明が、常に燐然と輝くのです。そして、各々の心の器に合わせて、その時・その場に相応しい救済の光が投げかけられ、順次段階を追って、心の器をより大きく・より清らかに変化させて下さるのです。

162

今どのような運命・境遇・環境におかれても、本心の心（謙虚な心・感謝の心）を生きようすれば、すべてをプラスにプラスに受け入れてゆくことができるのです。



**Bグループ  
テキスト  
「一語一會」  
指導 近藤 宏枝 世話人  
進行 西村 俊幸 世話人**

内容 一語一會 11月

十一月六日

要するに平生が大切です。このことを昔の人は「平生心是道」と申しています。つまり剣を持ったり、座禅をしている間だけが修行ではなくて、むしろ眞の修行は、竹刀を捨て座禅を解いてから始まるというわけです。

十一月十七日

一体どうしたら思索と行動のバランスがとれるか。

第一に、物事をおっくうがらぬこと。

第二に、つねに物事の全体を見渡す智慧を。

第三に、物事の本質的順序を誤らぬこと。

そして、これらの凡てを総括して行動的智慧という。

十一月二十九日

「わが子の教育には、母親は絶大な忍耐力がいる」

この点こそ、わが子の教育上、おそらくは最大最深の秘訣というべきかと思われる。

中之島ニュース138号ありがとうございます。石川真理子先生のお話、ちょうど鎌倉時代の日本が大きく変化する時代の大変なお話でした。今では、自由や多様性、個性が重んじられていますがまずこの「あるべきやうわ」が有つての自由や個性なんですね。

桂誠司様（四国中央市）

一気に冬を迎えた12月となりました。中之島ニュース、中川様のメッセージと共にお送りいただき、毎月届くのが楽しみです。私は歴史オンチだったのですが、数年前から日本の歴史、文化や人物などについて学ぶようになりました。興味・関心を持つようになりました。石川真理子先生の「あるべきやうわ」、また新たな学びをいただきました。

阪手揚子様（大阪狭山市）

芳信抄

中之島ニュース138号ありがとうございます。  
（お寄せいたいた原稿は、編集部で字  
数調整する場合があります。）

あなた  
の記事を掲載します

中之島  
素晴らしい人財の宝庫  
ニュースをご利用ください。  
（お寄せいたいた原稿は、編集部で字  
数調整する場合があります。）

イベントの広報や活動報告に「中之島  
人間学塾」

寺田一清先生に導かれて㉓ 近藤宏枝

一小さな一つをやりつけよう

思えば前身の「天分塾」から数えて二十一年目を迎えていますが、お陰様で多くの方々とのご縁を繋ぐことが出来ました。そんな中の二人、岡山県倉敷在住の田口和義さん・順子さんご夫妻のお話を記したいと思います。

ご夫妻は「岡山掃除に学ぶ会」に所属されていて、私はご主人の田口さんとかつて「天分塾」で塾生として一緒にさせて頂いていました。それが今では、私が世話を務めている「四国中央読書会」に年に一、二回ご参加下さっているのです。しかも参加される日は、掃除の会と重なるため早朝に掃除をしてから、車を運転して四国までお越し下さり、その学びの熱意には頭が下がります。更にお二人のご陰徳は、もう一つありました。私達の住む四国は、お大師様（弘法大師）の生誕の地であり「お遍路」の名で親しまれている四国八十八箇所靈場がございます。これはお大師様がお訪ねになつた所縁の地が靈場となつてゐるのですが、他にもある所縁の地を「四国別格二十靈場」と呼び、私の住む市にも別格第十四番札所・常福寺（椿堂）があります。

様々な不思議なご縁から田口さん達は、このお寺のトイレ掃除を年に一度、十年間続けられていて、しかも今では読書会参加の日に合わせて下さつてゐるのです。田口さんのお声掛けもあり、十一月の読書会の前に私もやつとご一緒させて頂くことが出来ました。トイレは大使器が四つ、小便器が四つ、これを二人で続けて来られたと思うと、地元に住む者として穴があつたら入りたい気持ちです。

当日の朝は爽やかな青空が拡がり、絶好の「お掃除日和」です。ご住職様と田口さんの信頼のほどがご住職様の笑顔から窺えました。途中お檀家の方がトイレ掃除に来られるなど、慈愛の心あふれる場に居られるご縁に深く感謝致しました。

『人間学塾・中之島』次月案内

# 編集後記

◆日時 令和7年1月11日(土)午後1時～  
◆会場 大阪大学中之島センター

◆講師 木南一志先生  
株式会社新宮運送代表取締役

A portrait of a middle-aged man with short, light-colored hair and glasses, wearing a dark suit and tie. He is smiling and appears to be speaking into a microphone.

テーマ

# 第13期宿泊研修 事前意向確認報告

日程  
会場  
講師  
鍵山幸一郎先生

4月12日(土)～13日(日)  
「朴の森」(山口県)

先月今期の宿泊研修のご案内及び事前の意向確認を実施したところ、全員の皆様からご回答いただきました。ご協力ありがとうございました。

現在45名が参加の予定です。2月にあらためて最終参加確認と研修の詳細のご案内をいたしますので、よろしくお願ひいたします。

**読書感想文の寄稿のお願い**



編集部アドバイス

編集部ノトレス  
2012nokanoshima@gmail.com